

■子育て支援関連団体等へのヒアリング実施結果～まとめと提言の可能性～

川崎市アンケート調査および市民会議ヒアリングアンケート調査結果(平成25年9月実施)

【調査調査結果】次世代育成支援に関するニーズ調査報告書(平成21年3月)  
就学前児童 3,440票、就学児童 2,953票

■子育てで困っていること【上位3位】  
第1位:安心して選べる場所がない  
第2位:交通機関や建物がバリアフリーではない  
第3位:子どもの犯罪被害

■子育てを楽しく行うためのサービス(就学前児童)  
第1位:子どもを遊ばせる場や機会  
第2位:親のリフレッシュの場や機会の提供  
第3位:子育て中の親同士の仲間作り

【2月2日実施】こどもと一緒にコンサートでのアンケート結果(平成25年2月)(72票)

■子育てで困っていること【上位3位】  
第1位:保育園がいっぱいで入所できない(33.3%)  
第2位:いざというときに子供を預かってくれる人がいない(27.6%)  
保育料や教育費の経済的負担が大きい(27.6%)

■行政に期待すること【上位3位】  
第1位:近くで選べる公園や広場の充実(43.1%)  
第2位:子どもと遊べるスポーツ・芸術・文化の各施設や活動の充実(41.7%)  
第3位:保育園の受入定数の拡大(38.9%)

■こどもと一緒にコンサートアンケート(主な自由意見)

(利用者のことを考えた公園がない)  
・法律上作らなきゃいけない小さな公園ばかりで本当の意味での公園がない。  
・家族が楽しく遊べる、広くて、本当に利用者のことを考えた公園がほしい。

(シングルマザー)  
・シングルマザーでも参加可能なイベント等

(気軽なカフェ)  
・気軽にカフェできるところがほしい



子育てしやすい環境づくりのテーマ

**子育て世代を支援する多様な保育の展開**

区民会議では、保育展開の一面ではなく、子育て支援活動のプラスの動きを考えていく。

テーマ	子育て支援団体へのヒアリングから得られた課題(6団体) (平成25年4月～5月)	行政へのヒアリング (子ども支援室、児童家庭課、生涯学習支援課) (平成25年9月)	区民会議意見まとめ 提言の方向性についてのアイデア
A 子育て支援・保育サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>サービス時間の延長、回数増</li> <li>室内で遊べて土日祝も空いている施設がもっとあると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>区内子育て支援施設・事業、地域子育て交流広場運営 ※地域子育て支援センター8、子育て自主グループ・サークル・ボランティアグループ29、子育てサロン7、子育て交流広場4、保育園・支援センター・市民館主催あそびの会</li> <li>子育てスペース 「よち・わく・のび」</li> </ul> <p>※詳細については、各種パンフレット等参照</p>	区内子育て支援施設は左記のとおりあるものの、現場からはまだ不足しているとの声はまだある。休日等に父親も含めた親子が室内で遊べる施設・事業の拡充が必要である。 ⇒地域間格差、人材・人件費も課題
B 預けられる場所・病後児保育等	<ul style="list-style-type: none"> <li>いざというときに預ける場所がなくて不安</li> <li>・2世帯住宅等でないと、いざという時等に預けられず不安。</li> <li>・いざというときやたまに預ける場所がなくて不安</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一時保育、病後時保育、ショートステイ事業、産後家庭支援ヘルパー派遣事業等実施</li> </ul> <p>※詳細については、各種パンフレット等参照</p>	事前申請が必要であったり、緊急で預けられる施設はない。⇒地域(自治会、町連等)のコミュニティで保育ニーズを広く受け入れる仕組み、環境づくりが必要
C 子育て相談		<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもに対する相談については、児童家庭課(今年7月設置)が窓口として常時対応している。いじめ問題などの相談ニーズはあり、力を入れていく。</li> <li>児童家庭課には保育士が設置され、待機児童を持つ保護者に対する情報提供やアドバイスを行うとともに、子育て相談にに応じている。 ⇒「子育てコンシェルジュ」の新規設置は不要と考えている。</li> </ul>	7月から児童家庭課に保育士が設置されているが、子育て相談体制をさらに充実させていくことが必要
D 子どもを遊ばせる場所や機会(公園や活動等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレイパークづくりのための法制度整備</li> <li>○法律上作らなきゃいけない小さな公園ばかりで本当の意味での公園がない。(子どもコンサートアンケート)</li> <li>○家族が楽しく遊べる、広くて、本当に利用者のことを考えた公園がほしい。(子どもコンサートアンケート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学等との連携により、親子を対象とした文化芸術イベントを多数実施している。</li> </ul> <p>※詳細については、各種パンフレット等参照</p>	プレイパークは対象が小学生以上⇒今回のテーマからは外れるか 人材や公園近隣居住者の理解と協力(騒音等)が必要 土・日曜日に保育園施設開放がされていなければ開放を
E 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て支援の情報が少ない</li> <li>子育て情報が錯綜していて、何が正しいのかわからず不安になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>母子手帳発行時、区内転入時、依頼があった際に、区の子育て支援情報(おでかけマップなど)を配布している。</li> <li>「子育てポケット」はもともと保育士用に作成したが、子育て相談に応じるなかで、3,000部発行し、保育園に子どもを通わせている保護者に漏れなく渡している。</li> </ul>	情報紙の作成に子育て中の親が参加できるように 情報が隅々まで行き届くよう情報発信の方策を検討
F 親同士の交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>親同士の交流がない</li> <li>子供と二人で過ごしている時の閉塞感がある</li> <li>気軽に親同士が集まる場所の設置が課題</li> <li>母親同士の情報交換・交流で、不安が払拭される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中原区では、民間との協働により「ママカフェ」を運営している。</li> </ul>	子育て支援のためのママカフェの設置 市民活動支援センターやまゆりを子育て世代にも開放する
G 保育園・文化施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>兄弟姉妹で同じ保育園に入れるか不安</li> <li>幼稚園・図書館は居住区によっては場所が不便</li> <li>・居住区域によっては、施設が遠く不便なところがある(はるひ野など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育園は18箇所、1800人が定員。来年270人定員増となるが、そうなるとこれまで保育園を検討していなかった層が検討を始める可能性もあり、充足規模の予測が不可能。</li> <li>家庭保育福祉員制度(保育ママ)制度</li> </ul>	保育園の増設、定員増問題は認可・無認可支援充実等多様な方策の中で解決 学校の図書館は開放されており、活用してもらうための情報発信が必要
H 児童虐待等支援の必要な児童への対応		<ul style="list-style-type: none"> <li>麻生区は、川崎市内でも虐待件数が最も少ないが、比率的には高くなっている。現在、虐待を受けている子どもは約100-200人と考えられる。未就学児童より小学生～中学生くらいが多い。</li> <li>子どもが大きな声で鳴いている、という市民からの通報は増えてきている。</li> <li>注意が必要な子どもについては、各保健師からの情報や健康診断から把握している。</li> <li>児童擁護施設が新規設置された。</li> </ul>	
I 子育てと仕事の両立	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育てと仕事が両立できる仕組みづくり</li> <li>イクメンの関心が弱い</li> </ul>		イクメンが子どもを連れて遊びに行ける場所、イベント等の仕組みを充実
J 保育人材	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育活動における人手・人材不足</li> <li>活動における人材不足</li> <li>○地域子育て支援センター:より丁寧にかかわるには人材不足</li> <li>○子育てサロン:参加者が100名以上になると相談を受けきれない</li> <li>○自主保育G:責任重い。</li> <li>○プレイパーク作りのためのリーダー必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「子育て人材バンク」を実施している。リピート利用があるため、ニーズはあるが、制度周知が課題。</li> <li>「ふれあい子育てサポート事業」子育て支援をしたい市民ヘルパーを育成。会員相互による育児援助活動を行う制度</li> <li>「ボランティア養成・研修講座」の実施している。地域の人材育成の方針については現在検討中。講座受講者のバンク化などの活用の仕組みは未だ出来ていない。コーディネーターの配置によるボランティアの地域活動への展開も検討中。</li> </ul>	今後は、有償ボランティア(高齢者含む)育成の制度(研修・派遣等)づくりを自治体を中心となり実施する
K 保育活動団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>《自主保育サークル》</li> <li>●公園の遊具が少なく、あまり利用されていない</li> <li>・公園に遊具少ない。また、幼児と母親だけで過ごす適当な場所が少ない。</li> <li>●公園があまり利用されていないので、多くの親子が来るように活性化が必要。</li> <li>●行政との協働</li> <li>・自主保育Cでは、行政との協働ができると良い。</li> <li>●プレイパークづくりのための法制度整備</li> <li>●場所が定まらず疲れる</li> <li>《市民子育てフリースペース》</li> <li>●活動運営の安定化</li> <li>《ボランティアグループ》</li> <li>●ボランティア活動をしたいが場所がない</li> </ul>		